



# とっとり

公益財団法人  
鳥取県国際交流財団  
Tottori Prefectural International Exchange Foundation  
公益財団法人鳥取県国際交流財団

# 国際通信



TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN 鳥取国際通讯



📷 表紙 Photo

## 2019年度 鳥取県・バーモント州 青少年交流事業 (10/18-10/29)

2019 Vermont-Tottori Youth Exchange Program (10/18-10/29)  
2019年度 鳥取県バモント州青少年交流事業(10/18-10/29)

➤ Pick UP! ⚡

鳥取県・バーモント州青少年  
交流促進事業詳細は2ページ  
をご覧ください。

### 目次 Contents / 目录

● TPIEF だより		● 山陰・夢みなと博覧会記念基金 助成事業の紹介	07
● 新理事長就任のご挨拶	02	● JICA デスクより	07
● 2019年度鳥取県・バーモント州青少年交流事業	02	● 英語版・中国語版ダイジェスト	08-09
● 多文化共生フォーラム開催のお知らせ	03	Information in English and Chinese	
● 令和元年度 鳥取県海外技術研修員、 県費留学生の紹介	03	Special Feature: Japanese Language Classes throughout the Prefecture	
● 特集「県内における地域日本語教室 の紹介」	04-05	英文版・中文版文摘	
● われら“鳥取人”	06	特集「鳥取県内の地区日本語学習班状況」	
● 国際交流民間団体の紹介	07	● 賛助会員募集のご案内	10
		● おすすめ図書コーナー	10



# 新理事長 就任のご挨拶

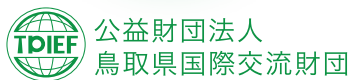
このたび、鳥取県国際交流財団の理事長に就任いたしました本名(ほんな)と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私はこれまで、鳥取大学で、砂漠化防止のための乾燥地の研究をすすめるとともに、留学生の教育、日本人学生の海外派遣、海外の大学や研究機関との協定締結など、グローバル人材育成のための取り組みを担当し、多くの国々の方々にお会いし、国際交流、国際理解の大切さを実感してまいりました。

鳥取県国際交流財団は、平成2年に設立され、おおよそ30年になり、国際交流活動の支援、地域の多文化共生に対応した様々な活動を行って

きました。令和の時代になり、新しい法律も制定され、ますます多くの外国人が長期的に日本に滞在されるようになってきました。鳥取県にも新しい時代がやってきたことを強く感じています。

当財団としましては、これからも県民の皆様とともに、新しい時代に対応した国際交流、国際協力、外国人への支援などの取り組みをより活発に進め、お互いの国籍や民族、文化の違いを尊重し、理解し合い、ラグビーのようにone teamで、ともに安心して暮らせる魅力ある鳥取県を目指していく所存です。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



ほんな としまさ  
理事長 **本名 俊正**

## 〈事業の開催報告〉

# 2019年度 鳥取県・バーモント州 青少年交流事業



今年も国際的視野を持った青少年の育成を目的とし、県内の高校生15名をアメリカ・バーモント州へ10/18(金)～10/29(火)の日程で派遣しました。バーモント州の高校生の家庭にホームステイしながら環境をテーマとした研修や州政府等を訪問するとともに現地の高校生との交流を深めました。



▲高校の日本語クラスにて



▲野外調査で博物学者の解説に聞き入っています!

## 生徒の感想

滞在した高校が多国籍だったので、お互いの文化を尊重していることに感動した。

友だちができ、英語での会話を楽しめて言葉の大切さを改めて感じた。

キーピングトラック(野外調査)では人間と動物は同じ世界にいと強く感じた。

様々なことを学んだが、私にできる事は今回学んだことを周りのたくさんの人に伝えていくことだと強く思った。

言いたいことがあっても自分で言わないと相手には伝わらなかったの、言いたいことを言葉にすることをこれからしていこうと思う。

英語をもっと学びたいと思ったので、英語を使ったボランティア活動などに挑戦していきたい。

# 多文化共生フォーラム@米子

開催のお知らせ



〈開催日時〉  
令和2年 **2月16日** [日] 午後

会場／米子市文化ホール「メインホール」

米子市末広町293 JR米子駅から徒歩2分

**入場  
無料**

内容  
第1部  
基調講演(女優 サヘル・ローズさん)  
第2部  
パネルディスカッションとまとめ

日本で暮らす外国人の数は増加の一途をたどり、その数は全国で280万人に達し、本県でも4,600人を超える外国人が生活しています。今後もさらに増加が見込まれることから、県民と外国人住民がお互いの文化や習慣をもっと理解し合うことを目的とした、多文化共生フォーラムを米子市で開催します。多数のご来場をお待ちしております。



〈女優〉  
サヘル・ローズさん

## 令和元年度 鳥取県海外技術研修員、県費留学生の紹介

### 鳥取県・韓国江原道 職員相互派遣事業研修員

キム ジョンチョル

金 鍾哲 さん



韓国／江原道出身



江原道庁で環境保全関連の仕事をしています。

江原道庁は、鳥取県庁と毎年交流をしていて、今年は私が鳥取県に来る機会をいただけてうれしいです。特に今年は交流25周年と特別な一年です。

鳥取県は美しい山と海、そして自然が周りにあって恵まれた地域だと思いますので、これからも保全がうまくいったら良いと思います。

鳥取県と江原道の交流がこれからも末永く続くことを願っています。

### 自治体職員協力交流事業 研修員

ボク セイリン

朴 正林 さん



中国／黒竜江省出身



中国の吉林省琿春市からまいりました。中国では、琿春市自然資源局で働いています。琿春市と境港市は友好都市、吉林省と鳥取県は友好県省で、行政、経済、文化、農業など様々な分野で交流を行っています。

私自身、これまで日本語を勉強したことはありませんが、仕事で使う機会は全くありませんでした。このチャンスは私にとってとても大切です。日本で実際に生活しながら様々な分野について勉強して経験することができて幸せです。帰国したら、日本で身につけた知識と経験を生かして地元の発展に貢献するだけでなく、中国語、日本語、韓国語を生かして、鳥取と吉林さらに日本と中国の友好の架け橋になりたいと考えております。

### 鳥取県ブラジル交流 促進事業 県費留学生

イシハマ スズキ カロリーネ さん



ブラジル／サンパウロ州サンパウロ市出身



私はブラジルで腫瘍学を学び、現在は鳥取大学遺伝子医療学部門で癌について研究しています。小さい頃から日本へ行くのが夢だったので、今年その夢が叶いました。

鳥取県では米子に住んでいます。米子は小さいけどとてもきれいな町なので、散歩したり、景色の写真を撮ったり、夕日を見たりして過ごすのが大好きです。この留学を通して、自分の勉強だけでなく日本の文化や日常生活についても学んでいます。ブラジルに帰ったら、学んだことを伝えていきたいです。留学の機会にとっても感謝しています。

# 県内における地域日本語

今後ますます地域における日本語教室の必要性が高くなっていく中、今回は鳥取県内

## 1. さかいみなと日本語クラス（境港市）



境港市にある日本語教室は、近年増え続ける技能実習生を抱える企業からの声を受け、平成30年度から境港市が中心となって日本語教室の立ち上げに取り組み、今年2月にスタートしました。

教室は5回を1期として季節ごとに開催しています。学習は、学習者とボランティアでグループを作り、毎回異なるテーマ（「病院」、「防災」など）に沿ってコーディネーターによる進行で進めています。



▲ 全体をまとめるコーディネーター



▲ この日のテーマは「病院」。近くの病院を探します！

### それぞれの声

#### 参加者の声

ホアン  
ティリンチさん

ベトナム出身



ゲームをしながら日本のさまざまな文化を学ぶことが楽しいです。また日本人の友だちができることがうれしいです。今は技能実習生として日本で働いていますが、ベトナムに帰ったら母国の会社で通訳を目指したいです。

日本で日本語を勉強している人は、この良いチャンスを生かしてがんばってください！

#### 講師の声

佐々木 邦広さん

コーディネーター

木下 朋子さん

コーディネーター



日本語教室では、学習者が“楽しく”日本語を覚えられることが一番であり、ボランティアの方にとっても外国出身者と楽しく交流することで喜びを感じてほしいです。それが日本人と外国人との共生社会へ繋がると思っています。

境港市は県内でも外国出身者の多い地域ですが、今後はもっと増えるでしょう。日本語教室に行政が関わることで、行政側としても“変えていく視点”を見つけていけると思います。たくさんの人や機関が日本語教室に協力することで地域全体が変わり、住む人みんなにとって“やさしい町”になるといいと思っています。

#### 運営 スタッフの声

大原 浩明さん

コーディネーター



境港市が熱心に取り組んでくださっていることが一番大きなポイントであり、行政から企業サイドやボランティアへ働きかけてくれることで上手いっています。

境港市には外国出身者が約500名、そのうち技能実習生は約300名いますが、彼らを孤立化させたくないと思っています。そして将来的には、日本に来ようと思っているベトナム実習生たちが日本を選ぶときに、全国の中から境港市が選ばれるように、こうした活動に取り組んでいます。とにかく何でもやってみないことには始まらない！試しにやってみよう！ということですね。

# 教室の紹介

にある地域の日本語教室の様子について紹介します。

## 2. 日本語学習会（倉吉市）



倉吉市日本語学習会担当

**田村 昭夫 さん**

日本語学習会は、実は中部地区に住んでいる外国人のお母さん方を中心に結成された「Toriフレンドnetwork」の「日本語がもっと分かるようになりたい」という願いから始まりました。

倉吉市人権局人権政策課は、2013年に倉吉人権文化センターに「日本語教室」を開設し、隔週水曜日19時30分から21時までの1時間半行っています。

学習は、個々の願いに合わせてそれぞれチームを組んで学習に取り組んでいます。上級レベルの日本語を学習する人、初歩の日本語を勉強する人など様々です。笑い声が絶えることなく学習が進んでいきます。時には1回限りの人も来ます。「せっかく日本に来たので、少しでも」という願いがあります。そういう人も歓迎です。そして学習の終わりには、すぐに次回の予定が配られます。

学習ばかりではなく、新年会・花見会・バーベキュー大会など楽しい催しをToriフレンドと協力して開きます。多くの方の来場を待っています。



▲学習会の様子



豊かで活力のある地域に向けて

## 多文化共生の入り口としての地域日本語教室

おたち くりえ

**御館 久里恵 氏** 鳥取大学 国際交流センター准教授(専門分野 日本語教育)

地域社会に暮らす外国人に立ちはだかる「壁」として、言葉の壁、制度の壁、心の壁の3つが挙げられます。日本語の単語や文法だけを必死に覚えても、孤独を感じたままではその人の地域での生きづらさが解消されることはありません。

今回紹介された2つの教室のように、多くの市民ボランティアが参加し、外国人の生活や課題に寄り添った支援をすることで、相互理解が進み、心の壁が取り払われ、また制度に対する理解や、制度自体の変化のきっかけにもつながることになり、外国人住民が安心して地域で暮らせるようになります。そして、そこでの生きた言葉のやりとりこそが、日本語の上達につながるのです。日本語教室を入り口として多文化共生が進むことで、より豊かで活力のある地域になることが期待されます。